

第52回 紫友まち歩き

「江の島を歩き尽くす」

江の島の歴史、自然、更に磯の食べ物等満載の江の島を歩き尽くすまち歩き。天気も回復して絶好のまち歩きとなりました。

今回の目玉は、知る人ぞ知る穴場「磯料理きむら」での打ち上げでの名物「金目鯛の煮付け」。乞うご期待 と案内役。

日時：2015年9月26日(土)

集合時間：13時00分

集合場所：小田急片瀬江ノ島駅前

参加者：22名参加

案内人：014C 笠井 尚紀

懇親会：「磯料理きむら」

懇親会参加者：22名

<まち歩き>:

■まち歩き行程

小田急片瀬江ノ島駅前 → 弁天橋 → 弁財天仲見世通り → 瑞心門、福石、杉山検校の墓 → 辺津宮(へつみや)、奉安殿 → 中津宮 → 奥津宮 → 岩屋 → 山ふたつ → コッキング苑、シーキャンドル → 児玉神社 → 湘南港大堤防 → 懇親会場

<スタート>

写真を見ながら楽しんでください。本文は案内役作成内容がほとんどです。

<スタート前の参考に一読>

・江の島か、江ノ島か？

湘南を代表する景勝地・江の島。駅名などは「江ノ島」と表記されているが、住居表示・公文書は「江の島」である。

片瀬海岸と砂州でつながる陸繋島(りくけいとう)で、周囲約4km、標高約60m、360人ほどの人が住んでいる。湘南には島が少ないため目につき、神秘的な海蝕洞窟「岩屋」もあったので、古くから修行の場・信仰の地となっていた。

1182年、源頼朝が岩屋に参詣して戦勝祈願

を行なって以来、いちだんと権威が高まり、鎌倉幕府の厚い保護もあって、神社は大いに栄えた。戦国時代は後北条氏、江戸時代は徳川氏の直轄領となったが、実質的な支配・管理は「江の島三宮」の別当である「岩屋本宮」「上之宮」「下之宮」の合議によって行なわれていたようだ。

① 小田急片瀬江ノ島駅前



② 弁天橋を渡る

江の島へ渡る「弁天橋」は1891(明治24)年になって初めて架けられた。それまで、干潮時は歩いて渡れたが、満潮時は“渡し船”か“渡し人足”の肩を借りていたことから、これが地元民の収入源になっており、橋の建設に強い抵抗があったためという。



ようやくできたその橋も、木橋だったため、流失を繰り返していたが、1949(昭和24)年になってコンクリート橋が完成し、さらに、東京オリンピックを機に、並行する道路橋もできた。

③ 弁財天仲見世通り

弁天橋を渡ると右手に「江の島アイランドスパ」がある。2004年にオープンした商業施設で、地

下 1,500mから汲み出した温泉を大小 10 の浴場やプールに供給するほか、飲食店、ショップなどを経営している。



江の島神社へと上って行く狭い参道の両側には、みやげ物屋・飲食店などが軒を並べている。昔からの名物は「紀の国屋本店」の女夫(めおと)饅頭(夫婦でなく女夫とお店では書かれていた)。冷めないうちにと歩きながら食べる人も多い。



最近人気があるのは「たこせんべい」。イイダコを丸ごとプレスして香ばしく焼き上げたものだ。



右手にある旅館「岩本楼」は、江の島三宮のひとつ「岩屋本宮」の宿坊が、明治になって名前を変えた由緒ある旅館。



中世から伝わる古文書や、室町時代末につくられた弁財天坐像など、貴重な文化財が保存されている。

④ 瑞心門、福石、杉山検校の墓



参道の先、朱の鳥居と竜宮城を模した「瑞心門(ずいしんもん)」をくぐると、右手に「福石」と呼ばれる丸い石と石塔がある。江戸時代の盲人・杉山検校(けんぎょう)に由来する史跡だ。



5歳で失明した杉山検校は鍼術を学んだが上達せず、祈願のため江の島を訪れた。石段でこの石につまずいて気を失うが、夢の中に弁財天が現われ、松葉の入った竹の管をくれた。それをヒントに「管鍼術」という療法を編み出し、江戸で名声を得る。将軍・徳川綱吉の治療もして関東総

検校という高い地位にまで昇りつめた杉山検校は、江の島神社に深く感謝し、社殿の改修や塔の建立などを行なっている。この奇跡と成功の伝説は、弁財天が“授福神”であるという信仰を大いに広めた。

⑤ 辺津宮(へつみや)、奉安殿

・江の島の本宮は辺津宮ではなく岩屋

石段上の大きな神社はかつての「下之宮」で、「辺津宮(へつみや)」とも呼ばれる。神社での祈祷がここで行なわれるため、本宮と思っている人も多いようだ。



辺津宮の境内には江の島のシンボル「弁天様」を祀る奉安殿がある。内部に「八臂(はっぴ)弁財天」の坐像と、安芸の宮島・近江の竹生島と並ぶ「日本三大弁財天」のひとつ「裸弁財天」が祀られている。



「八臂弁財天」は8本の手を持つ古い様式の弁財天で、鎌倉時代後期の作。「裸弁財天は」彩色の塗りが厚く、後補の部材も多いので、製作年代がはっきりしないが、同じ裸形像として知られる鎌倉・鶴岡八幡宮の弁財天(1266 年製作)より新しいと思われる。残念ながら現在工事中で見えることはできない。

末社である「八坂神社」「稲荷社」「秋葉社」などを右手に見て進むと「中津宮」に着く。



⑥ 中津宮

参道の両側にある1対の石灯籠は、江戸中期に歌舞伎の「中村座」と「市村座」が奉獻したもの。



1985年に奉獻二百年を記念して音羽屋七代目植樹した「しだれ梅」や、歌舞伎役者の手形も見るができる。



ここがもともとの「上之宮」で、853年の創建。徳川綱吉によって権現造りの社殿が再建され、現在は1996年の全面改修により極彩色を取り戻している。見どころは拝殿の天井画154枚。



そして水琴窟を構えた庭園(無料)だ。柄杓で水を筒に流し込むと、水滴が落ちて行き、軽い音を響かしてくれる。



⑦ 奥津宮

7～8分歩くと伝源頼朝寄進の鳥居を過ぎる。



「奥津宮」に出る。ここは「岩屋本宮」の御旅所(おたびしょ)という位置づけ。岩屋に海水が入る4～10月、ご本尊がこの宮に遷座するのだとか。社殿は壮麗を極めていたというが、1841年に焼失し、翌年、現在の形に再建された(意外なほど小さく地味)。



見どころは拝殿天井の「八方睨みの亀」。どの方向から見ても、こちらを睨んでいるように見える。江戸琳派の巨匠・酒井抱一の作と伝えられるが、貴重な実物は別に保管され、これは1994年に片岡華陽が復元したもの。



そばに竜宮もある。



⑧ 岩屋

いよいよ弁財天信仰発祥の地である「岩屋」へ。第一岩屋は奥行 152m、第二岩屋は 56m。弘法大師がここで修行したと伝えられる。江戸時代より訪れる人の絶えない聖地である。



1971 年、落石の危険があつて閉鎖されたが、補修工事を行なつて93年に再開された。



安全のため歩道橋や内屋根が建設され、また、資料や古地図などを展示するギャラリーがつけられたりして、神秘的な雰囲気は薄れたが、祀られている石像の数々や荒々しい岩壁などに、昔日の面影をしのぶことはできるだろう。



残念ながら潮が満ちているため、岩場の道を歩くことはできなかった。

明日9月29日は中秋の名月というので、ススキを写真に撮る。



⑨ 山ふたつ

来た道に戻って行くと「山ふたつ」と呼ばれる場所があり、ここが崩落してできた入り江の上部。緑の山が左右に分かれた地形を見下ろすことができる。



江の島を2つに分断してしまいそうなほど深く陸地に入り込んだ入り江がある。ここも大昔は岩屋のような洞窟だったが、重さに耐え切れず崩落して、現在のような形になったと考えられている。

⑩ コッキング苑、シーキャンドル

その先の左手にゲートがあり、そこからが「サミュエル・コッキング苑」。



1899年以前、横浜の居留地に住む外国人は、行動範囲を制限されていたため、範囲内にあつて風光明媚な江の島を訪ねることが多かった。ア

イルランド人で、雑貨・骨董品・植物などを扱う貿易会社を営んでいたサミュエル・コッキングは、島内に広い土地を買って別荘を建て、珍しい南洋植物などを持ち込んで、近代的な温室を擁する熱帯植物園をつくりあげた。関東大震災によって壊滅したが、1949年に「藤沢市立江ノ島植物園」として再開。以来、観光施設として親しまれてきた。2003年、敷地内にある「展望灯台」の建て替え工事と並行して大規模なリニューアル工事が行なわれ、「サムエル・コッキング苑」として生まれ変わっている。

この場所に先代の「展望灯台」が建てられたのは1951年のこと。以後50年、風雨や塩害に耐えて航路の安全を見守ってきたが、老朽化が進み、江ノ島電鉄開業100周年記念事業の総決算として、建て替えられることになった。2003年4月に「シーキャンドル」と名付けられてオープンした。地上からの高さ約60m、海拔約120m、10秒ごとに閃光する光の到達距離は46kmに達し、民間灯台として国内最大級を誇る。



西に富士山・伊豆・箱根・丹沢、南に大島、東に三浦半島、北に横浜ランドマークを望む絶景は次回の楽しみになった。

⑪ 児玉神社

帰路は辺津宮へ上ってきた石段を通らず、右手の山道を下りて行く。途中にある児玉神社は、日露戦争において満州軍総参謀長として活躍した児玉源太郎大將(1853～1906)を祀った神社。境内には山県有朋の歌碑、後藤新平の誌碑、二百三高地から持って来た石などがある。



鳥居や灯籠の寄進者に中国人名が多いのは、児玉が台湾総督を務め、未開地も多かった台湾の開発・発展に貢献したことから、現地の人々に感謝されたためだという。



⑫ 湘南港大堤防

さらに道を下って朱の鳥居の下に出たら、参道を弁天橋の手前まで戻る。右に曲がって飲食店が並ぶ広い自動車を歩いて行くと、左手に白い瀟洒な建物。2014 年5月に竣工した「江の島湘南港ヨットハウス 兼 湘南港・港湾管理事務所」だ。50 年前、東京オリンピックのヨット競技会場として建設された旧ヨットハウスが老朽化したため、新たに建て替えられたもの。カフェや船具のショップもあり、自由に利用できる。

その前を通過して「湘南港大堤防」に上がる。非常に高い堤防で、先端はウッドデッキになっており、実に気持ちが良い。釣り人が多く、意外なほどの大物も上がるそうだ。先端に立つ白い灯台はすっきりした形で美しい。途中挫折しベンチで待つ人も出た。灯台のウッドデッキまで行った人達での集合写真を撮る。



待機組の記念写真。



江の島は門前町の「西町」と、高所にある「山街」、そして漁師町である「東町」に分かれる。東町は、いまでも漁師が住む住宅地なので、観光客はめったに足を踏み入れない。だが、主に地元

の人が通う魚料理屋が3軒ほどひっそり営業しており、当然、こちらの方が安くてうまい。

⑬ 懇親会場「磯料理きむら」



今回は、知る人ぞ知る穴場「磯料理きむら」で打ち上げ。

まず生しらすが出る。



次は刺身とハマグリとサザエの焼き物。



最後の、名物「金目鯛の煮付け」は二人に一つ。



目玉を取り合いで食べている人たちもいたのに、
個々の二人の席では目玉だけが一つ残された。



二階の座敷の部屋での懇親でした。



今年の、残りのまち歩きの企画についても
話し合われた。お疲れ様でした。

